

平成28年度

# 市政世論調査概要

第 7 0 集

和 歌 山 市



## はじめに

昨年、人口減少に正面から向き合い、将来に向かって活力ある和歌山市を維持していくための地方創生に向けた取組みがスタートし、南海和歌山市駅前再開発や新市民会館の建設、さらに3つの大学の誘致が次々に決まりました。また、吉宗将軍就任300年記念行事や吉宗桜を海外の姉妹都市を始め各地に植樹するなど、様々なことが新たに動き出した年でした。

今年は、その桜が根を張り成長していくように、和歌山市が持つ自然・歴史・文化の魅力や個性に磨きをかけ、未来に向けての成長を確かなものになりたいと思います。

今春には、第二阪和国道において平井から淡輪ランプ間が開通することにより、和歌山市にとって関西国際空港がより近いものとなります。また、京奈和自動車道も和歌山JCTから岩出根来IC間が開通します。これらの道路状況の進展により中部・関東圏とも新たな繋がりができ、和歌山市にとって大きなチャンスが到来します。

一方、国では2020年の東京オリンピックに向け、海外に向けた情報発信を強めています。本市にとっても、この3年は成長するための非常に重要な3年となります。この機会を逃すことなく、より近くなる関西国際空港や経済圏の広がりを活用することで、観光や産業面でも新たな国際戦略を立てることが可能となります。そうすることで、成長力の高い海外の活力を呼び込むことにより、和歌山市の経済成長に繋げていきたいと考えています。

また、少子高齢化が加速する中、地域づくりに関する市民のニーズは多様化しています。今後、市民生活の質を維持・向上させていくためには、市民の方々に地域への愛着と「自分たちの地域は自分たちで良くする」という意識を育んでいただき、住民主体の「共助」のまちづくりを一層進めていく必要があります。

そして住みよいまちにしようとする市民の方々の活動と合わせ、本市が持つポテンシャルを活かしつつ、コミュニティが充実し、住んでよかった、さらに、住みたくなるような「きらり輝く元気和歌山市」の実現に向けて全力で取り組んで参ります。

この冊子は、アンケート調査で得られた貴重なご意見を市政に最大限活用し、今後の施策や計画に反映することを目的とした貴重な資料であります。

ここに、平成28年度市政世論調査概要（第70集）を取りまとめましたので、関係各位におかれましては、ご活用いただければ幸いと存じます。

終わりに、この調査を実施するにあたり、ご協力いただきました市民のみなさまに厚くお礼申し上げます。

平成29年3月

和歌山市長 尾花正啓



### 和歌山市き章（明治42年制定）

和歌山市は三方山に囲まれ、西は紀伊水道をへだてて、淡路島、四国が見える風光明媚な温暖の地である。

その和歌山市の力強い発展をき章が表している。

すなわち、山の形の印は、和歌山市は三方山に囲まれているので、その地形を表し、白い矢印は和歌山市発展の勢いを表す（三方の山を貫く市民の力）。

○ はワカ山のカ（カタカナ文字）を図案化したもの。

和 は和カヤマの和を表している。

### 市民憲章（昭和41年11月3日制定）

わたくしたちは、和歌山市民であることに誇りをもち、平和で豊かなまちをつくるため、市民の心がまえを定めます。

- ① 自然を愛し、きれいなまちをつくりましょう。
- ② 互いにたすけあい、希望にみちたまちをつくりましょう。
- ③ きめごとを守り、人に迷惑をかけない市民になりましょう。
- ④ 仕事に誇りをもち、たくましい市民になりましょう。
- ⑤ 教養を高め、視野の広い市民になりましょう。

# 目次

I. 調査の概要	5
1. 調査の目的	5
2. 調査の内容	5
3. 調査の方法	5
4. 集計区分	6
5. 回答者の属性	7
6. 回答者の家族環境	10
II. 調査の結果	15
1. 市政一般について	15
2. 統合型リゾート（IR）の誘致について	16
3. 民泊について	23
4. 自家用自動車の個人間のカーシェアリングについて	27
5. 南海和歌山市駅前広場の整備について	35
6. 和歌山城のおもてなし忍者について	45
7. 公共施設の重要度について	52
8. スポーツについて	54
9. 男女共生について	60
10. 災害や防犯対策について	62
11. 健康について	85
12. 食育について	100
13. 生涯学習について	114
14. 和歌山市の取り組みに対する満足度・重要度について	121
15. 和歌山市の市政について（自由意見）	135
III. 調査票	139

## ※報告書利用にあたって

- 図および表中の比率は、小数点第2位を四捨五入して表示しています。したがって、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。
- 複数の回答を依頼した質問では、比率の合計が100%を超えています。
- 図中の「n」とは、質問別の該当対象者数を示し、比率は「n」を100%として表示しています。「n」が調査母数の場合は表示していません。今年度は「1026」となっています。
- 年齢層別クロス集計について、18～19歳は回答数が少ないため、本調査の結果が和歌山市における当該年齢層の傾向と異なる可能性があることをご理解の上、調査結果をご覧ください。